自らへの自信

大竹市立大竹小学校　校長：小西　啓二【施設泊】山口県立由宇少年自然の家

自己有用感を高める自発的，自治的な体験活動

１　「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

大竹小学校の５年生は，年度当初より「元気・本気・根気」をキーワードに，学校生活を送っています。「楽をしたい。」「一人ぐらいがんばらなくてもいいや。」という甘えの心にストップをかけて，困難なことであっても，何とか乗り越えられるように一人一人が考えたり，友達と力を合わせながらやり切ろうとしたりする児童になってほしいと考えました。

３泊４日の野外活動では，集団生活を通して児童が主体的に行動する場面や困難な状況でも自分たちで解決していく場面が多く設定できます。児童の課題である自己有用感を「みんなの役に立った。」「自分のしたことがみんなに喜んでもらえた。」と捉え，それらの思いをさらに高めるチャンスとして活動内容を考え，場の設定を工夫して取り組みました。

２　「山・海・島」体験活動の概要

（１）目標

〇自然に親しみ，人とふれあうことの喜びを味わう。

〇集団生活を通して，規律・責任・協力の大切さを体験する。

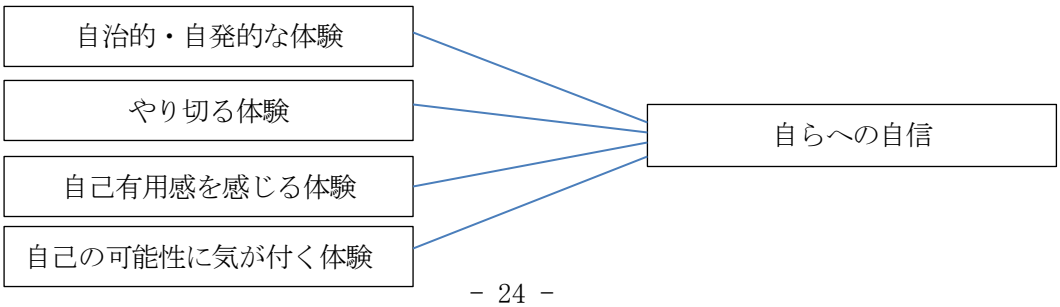
〇３泊４日を児童が中心となって企画・運営する協同生活を通して，自分を見つめ直したり，仲間の良さを実感したりする。

（２）３泊４日の主な内容

	午前		午後	夜
１日目			オリエンテーション	スタンツ練習
２日目	清掃活動	集団行動	・Ａ班　まが玉作り ・Ｂ班　ネイチャークラフト ・野外炊事	星空観察
３日目	清掃活動	ウォークラリー	・Ａ班　ネイチャークラフト ・Ｂ班　まが玉作り （２日目のＡ班，Ｂ班入れ替え） ・ＡＦＰＹ(仲間づくり活動) ・西日本豪雨災害被災地へ送るぞうきん作り	キャンドルサービス
４日目	清掃活動	ふりかえり活動	解散式	

３　体験活動の指導の工夫

３泊４日の体験活動の中で，自治的・自発的な体験，自己有用感を実感する体験，やり切る体験，自己の可能性を発見する体験を総合的に行うことで，児童が自らへの自信を深めることができると考えました。



（1）自治的・自発的体験

○　実行委員会の設置

構　　成：各クラスから選出した６名の代表者（計１８名）

ね　ら　い：児童自身が計画の一部を自分たちで企画・運営することで，自治意識を高める。

活 動 内 容：事前の実行委員会の開催

体験活動中の班長会の運営

指導の工夫：体験活動の活動内容を企画させる。

企画したことを持ち帰り，各学級で説明させる。

体験活動の説明・進行を行わせる。

体験活動中に，毎晩，班長会を開催させる。

○　生じる可能性のある問題を予想させ，全員でやり切るための対応策を考えさせる。

ね　ら　い：問題に直面しても，自分たちで解決しようとする態度を養う。

活 動 内 容：全ての体験活動を行う前に，話し合いの場面を持たせる。

（2）やり切る体験

○　集団行動を核とするプログラム

ね　ら　い：最後まで全力でやり切る体験をさせることで，自らへの自信を深め，その後の体験活動も，最後まで全力でやり切ろうとする態度を養う。

活 動 内 容：120 人全員による集団行動

指導の工夫：６人グループ，60 人グループ，120 人全員の３つのグループに分かれて練習させる。

すばやく合わせた行動をとるために，できるだけ大きな声を出して意思表示させる。

仲間への励ましの声掛け，あきらめずにやり通すための声掛けを積極的にさせる。

（3）自己有用感を感じる体験

○　肯定的評価を相互に実施する

ね　ら　い：自己有用感を，他の体験活動につなげるため，お互いを肯定的に評価し合う。

活 動 内 容：各体験活動終了後に互いを肯定的に評価する場面の設定

指導の工夫：次の視点に基づいた評価をさせる。

・自分が，他者のために行動できているか

・仲間が，他者のために行動できているか

（4）自己の可能性に気が付く

○　集団に貢献するために自分に何ができるかを分析する。

ね　ら　い：集団に貢献するために，自分ができること，実現は難しいが挑戦することを分析・整理して，自分が集団に貢献できる行動に結びつける。

活 動 内 容：各自が４日間を振り返る活動の設定

指導の工夫：「集団をよくするための重要性」「自分が実現できる可能性」という２つの指標を用いた評価シートに，4 日間の行動を記入し，自己の行動を分析する。

（5）自発的，自治的な活動への意欲を継続，定着させる場面の設定（総合的な学習の時間との関連）

ね　ら　い：自発的，自治的な活動への意欲を継続，定着させる。

活動内容①：豪雨被災地への支援

指導の工夫：その際に，自校と相手校の双方の気持ちが届くようにビデオレターを作成して，送り合うことで「役に立った」「喜んでもらっている」という実感を持たせる。

活動内容②：高齢者施設のお年寄りとの交流と発表会への招待

指導の工夫：高齢者の方に「行ってみたい」「見てみたい」と思ってもらえるよう自分の気持ちを招待状に書かせる。

4　取組による成果

（1）自己への自信の深まり

【児童の感想】

・大きい声であいさつをしたり，お礼がはっきり言えるようになり，あいさつの自信がついた。
・友達に進んで声をかけることができるようになった。
・自分の意見を班のみんなに言い，班の人の意見を聞いてまとめることができるようになった。
・班で協力するなど，助け合って最後までやり切ることができるようになった。

集団行動を核とするプログラム，班やグループでの問題解決の場を設定したことで，児童は困難な状況を仲間と共に乗り越えた達成感を味わうとともに，自己の課題を克服し，自信を深めることができました。

（2）自治的・自発的な行動への意欲

○　自治的・自発的な環境整備

体験活動後は，児童が過ごす教室や校舎等を自分たちで快適な環境にしようと，自分たちでチェックポイントが綺麗になったか声をかけ合ったり，掃除時間以外でも，一人一人が主体的に教室内や自分の机の周辺の整理整頓を積極的にしたりするようになりました。

大竹小学校 再スタートウィーク集計

	指導内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年
☆	児童の実態を踏まえて，画面的な座席の配置を考えている。	○	◎	◎	◎	◎	◎
①	返事…挨拶観察や授業時「はい。」気持ちのよい返事ができる。	◎	○	○	△	△	○
②	挨拶…３つの㊞の確認　大人には立ち止まってあいさつができる。	△	△	○	×	×	○
③	言葉遣い…キラキラ言葉・先生には丁寧語をつかっている。	○	△	○	×	○	◎
④	姿勢…ピンペタグー　黒板・話し手に必ずおへそを向けている。	○	○	◎	△	○	◎
⑤	たまりんこタイム　静寂を学年×５分作ることができる。	○	○	○	○	◎	◎
⑥	給食指導　学年で確認した準備片付けの徹底と12:30までに「いただきます。」ができる。	◎	○	◎	○	○	◎
⑦	雑巾の使い方（下敷きに指導）…　かかとをそろえる。上の段…上ぐつ…　下の段…外ぐつ	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑧	たまりんこ掃除を徹底して掃除ができている。（全職員で担当の掃除分担場所指導）	△	△	○	×	○	◎
⑨	ロッカーの使い方・・・学年で決めた方法で整頓されている。	○	○	◎	○	◎	◎
⑩	お道具箱・雑巾の中身がそろい。下敷きを使って学習している。	○	○	◎	△	◎	◎

最終日の13日（金）の学級の様子を見てください。
0～79%⇒×，80～89%⇒△，90～94%⇒○，95～100%⇒◎

大竹小学校　９月スタートウィーク集計

	指導内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支
☆	児童の実態を踏まえて，画面的な座席の配置を考えている。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
①	返事…挨拶観察や授業時「はい。」気持ちのよい返事ができる。	○	◎	○	△	○	○	◎
②	挨拶…３つの㊞の確認　大人には立ち止まってあいさつができる。	△	△	×	×	○	△	△
③	言葉遣い…キラキラ言葉・先生には丁寧語をつかっている。	○	○	○	△	○	◎	△
④	姿勢…ピンペタグー　黒板・話し手に必ずおへそを向けている。	○	○	◎	○	○	◎	○
⑤	たまりんこタイム　静寂を学年×５分作ることができる。	◎	○	○	○	◎	◎	△
⑥	給食指導　学年で確認した準備片付けの徹底と12:30までに「いただきます。」ができる。	○	○	◎	○	○	◎	○
⑦	雑巾の使い方（下敷きに指導）…　かかとをそろえる。上の段…上ぐつ…　下の段…外ぐつ	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑧	たまりんこ掃除を徹底して掃除ができている。（全職員で担当の掃除分担場所指導）	△	○	○	△	○	◎	△
⑨	ロッカーの使い方・・・学年で決めた方法で整頓されている。	◎	◎	◎	△	○	◎	◎
⑩	お道具箱・雑巾の中身がそろい。下敷きを使って学習している。	◎	◎	○	○	○	◎	○

最終日の7日（金）の学級の様子を見てください。
0～79%⇒×，80～89%⇒△，90～94%⇒○，95～100%⇒◎

①	**返事**…健康観察や授業時 「はい。」気持ちのよい返事ができる。
②	**挨拶**…３つの㊞の確認 大人には立ち止まってあいさつができる。

大竹小学校では，学習規律を見える化して，全教職員で指導をしています。４月と９月の自己評価を比べると，「気持ちの良い返事ができる」「人には止まって挨拶ができる」という項目が，90%以上になり，全ての項目が，90%以上の「○」となりました。

（3）自己有用感の高まり

【児童の感想】

・自分たちがしたことで，あんなに喜んでもらえるとは思わなかった。人とつながれた気がした。
・友達に「それいいね。」と言ってもらえたことで，自信をもって活動することができた。やり切った時，自分の考えが役に立ったことも合わせて２倍うれしかった。
・発表会におじいちゃんたちが来てくれてうれしかった。これからも大竹のお年寄りが笑顔になることを考え，実行していきたい。

活動後に相互評価の場を設定することで，他者のために動けた自分や友達のよさに気付き，その価値を共有することで個や学年全体の自己有用感の高まりを感じることができました。また，総合的な学習の時間の学習「西日本豪雨災害」や「高齢者の方との交流」を野外活動や事後の学習に関連付けることで，「自分たちにできることをしたい」「何ができるか考えてみたい」という児童の思いを形にすることができました。それが「みんなの役に立った」「喜んでもらえた」という自己有用感の高まりにつながり，次の活動へのエネルギーになっています。

「みんなで伸びる」

二〇一八年の夏休み
家族とはなれ
仲間と過ごした三泊四日の野外活動
それは　今までの自分を見つめ直し
そして　これからの自分をみすえた三泊四日

集団行動から始まった野外活動
大きな声を出すことが恥ずかしい
めんどうなことは苦手だから
一人くらい出さなくてもわからない
何度も続くやり直しの連続で
あきらめかけたその時に
友達の一生懸命な姿を見て勇気がわいた
ぼくにもできる
わたしにもできる
もっとできる
あと少し　みんなと一緒なら
まだ　がんばれる
全員の心が一つになった時
自分でも信じられないくらい
大きな声が出せた

そして学んだ三つのこと
大きな声を出すこと
それは自分の気持ちを伝えること
機敏に動くこと
それは時間を大切にすること
周りに合わせること
それは互いの気持ちを思いやること

野外炊事　キャンドルサービス
思いっきり笑った楽しいこと
苦しくて涙を流したつらいこと
仲間を信じ
相手を思いやり
共に助け合い
どんなこともやり切ることができた

いつもしているあいさつや返事を
伝わる声でしっかりしていこう
どんな時にも進んで行動し
全力で取り組んでいこう
どんなことも最後まであきらめず
自分たちの力でやり切っていこう

わたしたちは
友達
家族
先生
みんなに支えられている
今まで関わってきた全ての人に感謝したい
たくさんの経験を積み重ね
前より強くなった自分がいる
これからは頼ってもらえる自分になろう
そしてだれかのために
自信をもって
進んで行動していこう

「竹っ子学習発表会」群読（平成 30 年 10 月 27 日）